

『水道橋』

周辺をっ紹介

「小さな親切」運動が誕生して60年余り。以来、運動本部はJR水道橋駅の南側、「東京都千代田区神田三崎町」に事務局を置いています。運動の歴史を見守ってきたこの土地の由来や、周辺スポットをご紹介します。

地名に歴史あり 住民が守った「三崎町」

水道橋の駅名の由来は、江戸時代につくられた神田上水の水路橋（水道橋）にありますが、「神田三崎町」の歴史は江戸以前、この辺りが「三崎村」と呼ばれていたことに始まります。当時、現在の都心エリア（大手町・日比谷・新橋周辺）は「日比谷入江」という遠浅の海で、三崎村はこの日比谷入江に突き出た土地の端にあつたため、「ミサ

キ（岬）」の名がついたと伝えられています。江戸幕府が開かれると、埋め立てられた入江や湿地帯に、大名や旗本の武家屋敷が建てられ、この辺りは「小川町」と呼ばれるようになりました。運動本部のある場所は、江戸後期の地図によると「伊予今治藩松平家」のお屋敷となつています。明治に入り、大名屋敷や江戸幕府の施設が民間に払い下げられると、市街地として発展。地名は「三崎町」に改称され、三崎の名が復活しました。さらにこの時期、日

本法律学校（現…日本大学）が移転してきたことから、大学や専門学校も多く集まるエリアとなりました。昭和になると、住居表示により「三崎町」消滅の危機が何度か訪れましたが、その度に住民の反対があり、阻止されてきました。様々な変遷を遂げてきた水道橋周辺。ビルが立ち並ぶ今では想像もつきませんが、地元の方々によって古くからの地名が受け継がれてきた歴史ある町です。

（参考…千代田区ホームページ）



野球だけではない アミューズメントの一大聖地

「東京ドーム」の最寄り駅である水道橋。3月18日・19日、ドームで行われたMLB開幕戦は、大谷翔平選手ほか日本人選手の活躍が話題に！水道橋周辺もMLB一色となりました。ドームを含めた「東京ドームシティ」は、遊園地や温泉施設、ローラースケート場、ボウリング場等もあるアミューズメントの聖地。

また、江戸時代は水戸藩の敷地であり、藩邸内に作られた「小石川後楽園」は、都会の中の自然豊かな庭園として人気の観光スポットとなっています。



水道橋のパワースポット「三崎稻荷神社」

運動本部職員が毎年、新年のお参りをしている神社です。一説によると鎌倉時代より前に創建されたと伝えられ、徳川3代将軍・家光が旅行安全にご利益ありと信仰したことから、参勤交代などで登城する大名は必ず参拝し身を清めたといわれています。ビルに囲まれた小さな神社ですが、商売繁盛、学業成就のご利益もあり、地元の信仰を集めています。

